

第2次 西栗倉村 教育振興基本計画

令和6年度～令和10年度

目次

1. 計画策定の趣旨	1
2. 計画の期間	2
3. 計画の位置づけ	2~3
4. 計画の進行管理と評価	2
5. 村の教育をすすめるための方針、体系	3~7
6. 基本施策の取り組みと目標・指標	
①心豊かな人づくり	8~9
②乳幼児教育の充実	10~11
③西栗倉一貫教育の推進	12~14
④個別最適な学びと協働的な学びの実現	15~16
⑤人生を輝かせられる学びの推進	17~18
⑥「学び」を支える環境の整備	19~20
7. 教育委員会関係の施設・設備について	21~22
8. 資料	23

1. 計画策定の趣旨

西粟倉村教育委員会では、平成26年度に「第1次西粟倉村教育振興基本計画」を策定し、7つの育てていきたい人の姿を目指し、家庭・学校園・地域・村がお互いの役割を果たしながら取り組むべき教育施策を実施してきました。そして施策のひとつでもありました西粟倉村の百年の森林構想により大切に受け継がれた木材を活用し、多くの村民の方と議論し、様々な方の力を集結し形にした念願の認可保育園の建設・開園と村民一人ひとりが生きることを楽しみ、学びやつながりを通じて、人や地域が育つための拠点「あつまる つながる やってみる」と想いを込めて役場庁舎と合わせた図書館を含む生涯学習施設の整備は村の大きな事業でもありました。

またこの間、平成30年度には幼稚園教育要領、令和2年度に小学校、令和3年度に中学校の学習指導要領も新たな学びへと進化をめざした改訂が行われました。そして国の「第4期教育振興基本計画」（令和5年6月）が策定され、岡山県においては「第3次岡山県教育振興基本計画」（令和3年2月）が策定されました。

西粟倉村においても、令和3年6月に西粟倉村に関わる全ての人が協働し、「生きるを楽しむ 百年の森林に育まれたむら」づくりをすすめていくため「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と「西粟倉村総合振興計画」を一体的な「第6次西粟倉村総合振興計画」が策定されました。その中で教育・文化分野においても重点戦略として「全ての村民が笑顔になる 未来志向のむらづくり」を位置づけてます。

そして、一人ひとりが幸せな人生と社会の持続的な発展を目指すために、教育の果たす役割はますます大きくなっていることから、西粟倉村長と西粟倉村教育委員会と協議を行い、西粟倉村の教育の基本理念を表す「西粟倉村教育大綱」が令和6年1月に策定されました。

このたび、「第1次西粟倉村教育振興基本計画」の計画期間が令和5年度で終了することと、西粟倉村教育大綱の理念を実現するための計画として「第2次西粟倉村教育振興基本計画」を策定します。策定にあたっては、第1次教育振興基本計画を継承しつつ、社会を取り巻く環境の変化や新たな時代の変化にも対応した、今後の本村教育が目指すべき方向や計画期間中に取り組むべき基本的な施策、目標とする指標等を明らかにし、学校・家庭・地域・村が一体となって「生きるを楽しむ、百年の森林とともに未来をつくる」人財を育成していきます。

2. 計画の期間

この計画は令和6年度（2024年度）から令和10年度（2028年度）の、5カ年計画とします。

3. 計画の位置づけ ※次ページ概要図のとおり

本計画は、教育基本法（平成18年12月22日法律第120号）第17条第2項の規定に基づく、地方公共団体における教育の振興のための基本的な計画です。本村の最上位計画である「第6次西粟倉村総合振興計画」や教育施策の理念を示した「西粟倉村教育大綱」やその他教育に関わる計画等との整合性を図り、実施すべき施策を明らかにした総合的な実施計画と位置づけます。

4. 計画の進行管理と評価

西粟倉村教育振興基本計画を実行するため、以下の項目を掲げ、施策の効果的かつ着実な推進を目指します。

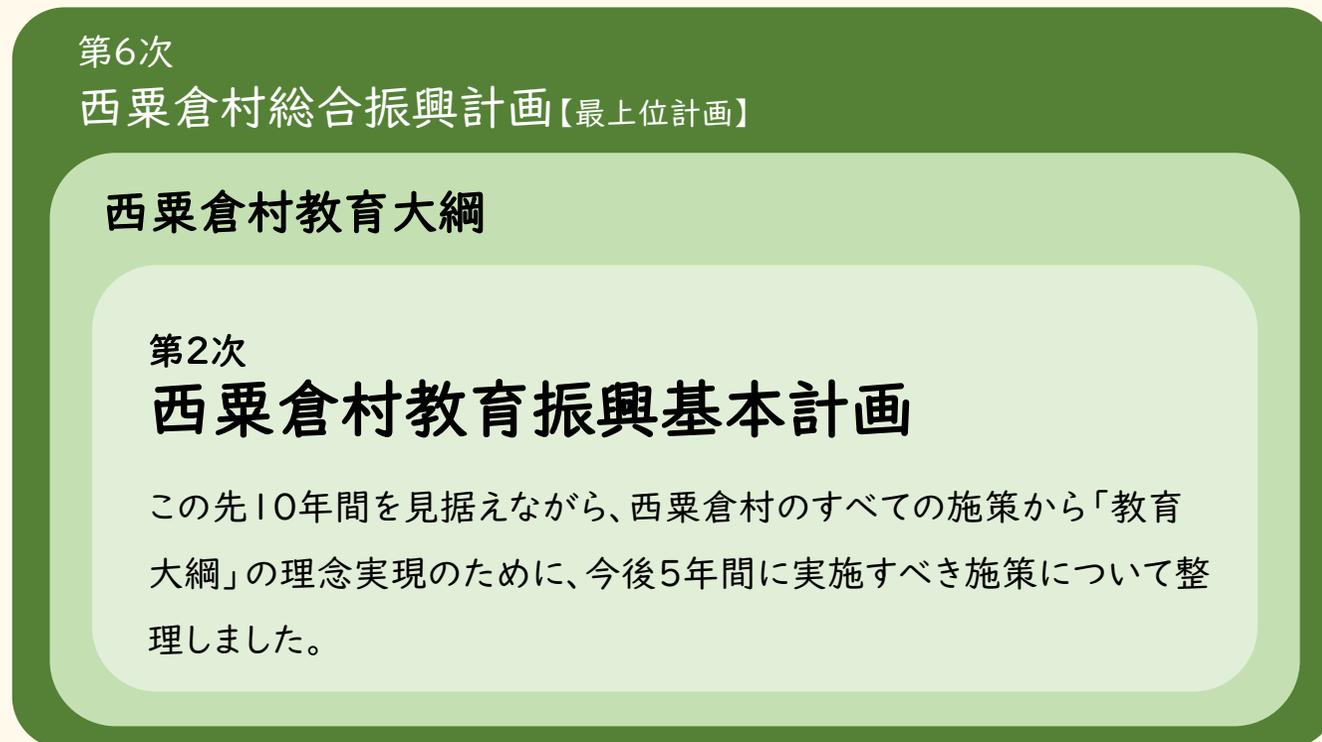
○計画の進行管理について

本計画を効果的に推進するためには、定期的な事業の点検とその結果を施策にフィードバックさせることが必要です。つまり、計画（Plan）に定めた取り組みを確実に実施（Do）し、その事業の実施方法・活動実績を点検・評価（Check）し、必要に応じて改善を図る（Action）といったPDCAサイクルを重視し、進捗状況の点検及び評価を実施しながら推進します。

○点検・評価について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第26条）に基づき、毎年度点検・評価を行います。点検・評価の結果は、報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表することとなっています。さらに、点検・評価の結果を、次年度以降の施策の改善等に生かすように努めるとともに、計画の実施においては、状況の変化に応じて計画内容を適宜見直します。

各計画との関係概念図



教育振興
基本計画(国)
令和5年度～令和9年度

岡山県教育振興
基本計画
令和3年度～令和6年度

西粟倉村子ども計画

後期:令和3年度～令和6年度
【次世代育成支援対策地域行動計画】

西粟倉村子ども・子育て
支援事業計画

令和2年度～令和6年度

教育大綱

『生きるを楽しみ、百年の森林とともに未来をつくる』

3つの問い

- ① 人生をより豊かに楽しんで生きるためには、どのような学びや気づき、環境が必要か
- ② 生活と自然環境の調和をどう図り、行動するのか
- ③ 時代の変化に対応しながら、主体的に課題を見だし、子どもたちが未来ある社会の担い手として成長するためには何が必要か

(詳細 ▶ P25)

SDGs (Sustainable Development Goals) の達成



2030年までに持続可能な社会を実現するための目標SDGs教育(学習)がすべてのゴールのはじまりとなるため、各ゴールに照らして計画を実行していくことが重要です。

(詳細 ▶ P26)

実行に大切な2つの価値観



西粟倉村の教育を豊かなものにしていくために「安心」と「挑戦」の2つの価値観が共通して重要だということが見えてきました。

(詳細 ▶ P27)



生涯学習

人生を
輝かせられる

高校・大学～
世界を
楽しむ

安心

挑戦

心を
豊かに

就学前

自分を
生きる

小中学校



大人から子どもに そして、次の世代へ

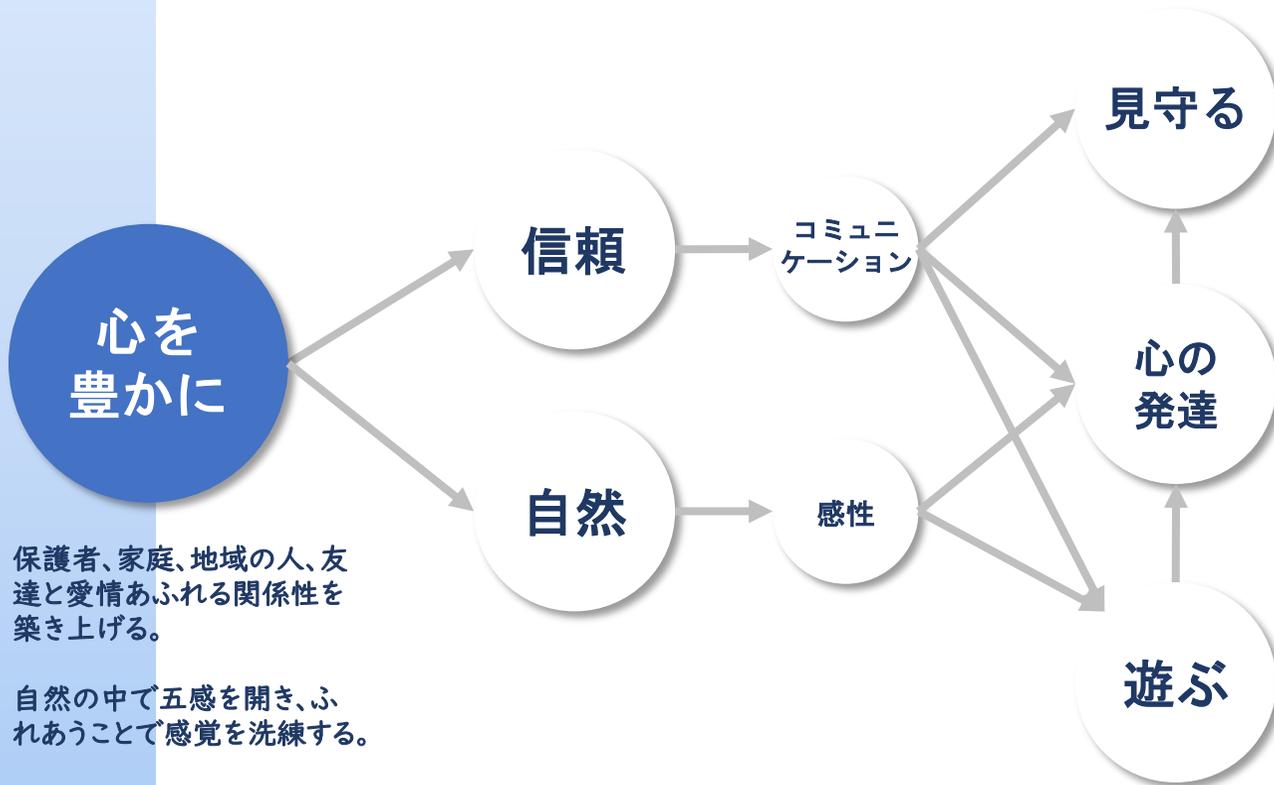
各年代ごとのワークショップで、とくに優先順位が高く、教育の目的としてとらえられるものを取り上げます。

就学前：心を豊かに
小中学校：自分を生きる
生涯学習：人生を輝かせられる

「安心」と「挑戦」を土台として、各年代の発達段階に応じた取り組みを行なうことで生きるを楽しむが実現できます。

子どもは大人の姿を見て育ち、成長した子どもは次の世代の見本となります。

種から苗になり、若木が育ちまた次の世代の森林に受け継がれるように、西粟倉村の学ぶ姿勢もまた循環するように受け継がれていきます。



保護者、家庭、地域の人、友達と愛情あふれる関係性を築き上げる。

自然の中で五感を開き、ふれあうことで感覚を洗練する。

お祭りやイベントなど様々な世代の交流があり、普段の生活の中でも気軽にあいさつできる関係を築く。

心に余裕を持ちポジティブな考え方ができる声かけを行なう。

児童心理・発達について保護者が学ぶ場をつくり、子どもへの理解を高める。

スキンシップする機会を増やし、子どもたちへ愛情を伝える。

思い切り遊ぶことで五感を刺激できるように遊び場、施設の充実を図る。

親子・家族と一緒に過ごす時間を多く持ち、ふれあう機会をたくさんつくる。

PICK UP!!

認定子ども園の検討

分断されない保育
保育園・幼稚園の連携
一貫したプログラム

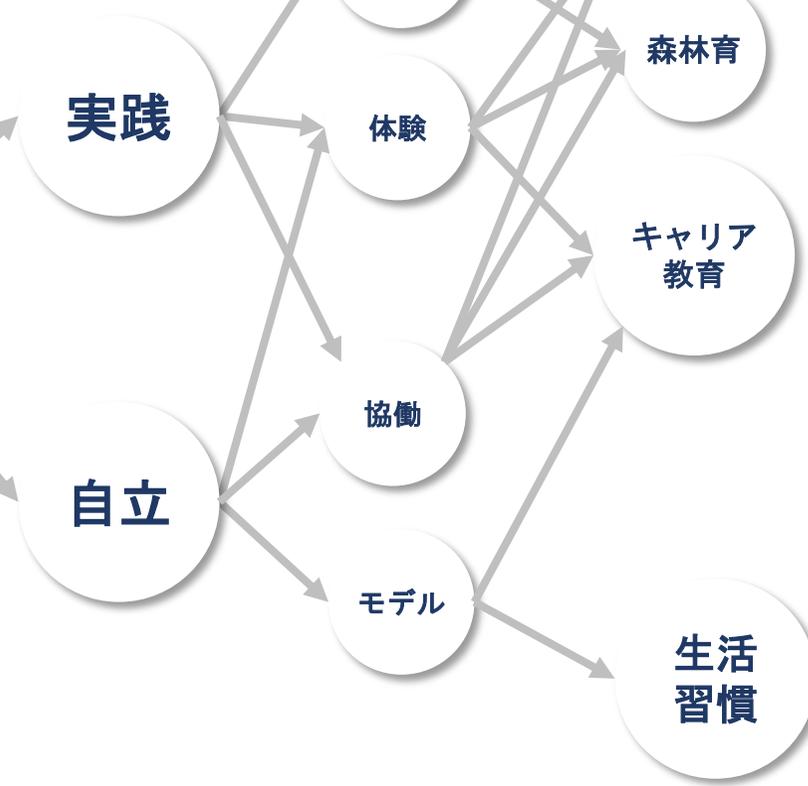




自分を生きる

乳幼児期に育んだ五感を働かせながら、やってみたいことに、挑戦する。

自立自律に向け、家事やお金のことなどにも関わりながら、自己判断ができるよう、生きる力を身につける。



地域を知り、地域に対する実践活動を通して学びを深める。様々な体験を通して西栗倉の特徴を体感し、学習の礎とする。

森林に囲まれた西栗倉村の特色を生かした教育を行ない、自然環境の保護・維持、森林資源の活用を学ぶ。

働いている先人、進学した先輩をモデルとしながら、元気学習や社会教育で積んだ多様な体験をもとに自分の生き方を決めていける機会をつながりをもってつくる。

自分のやりたいことだけを推し進めるのではなく他人と協働し、ともに尊重しあいながら学びあう関係を築く。

大人が常に学び続けるかっこいい姿を子どもたちにも見せる機会をつくる。大人同士子ども同士だけでなく世代を超えて学びあう。

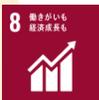
世話をしてくれることが当たり前だと思わず、生活において自分でできることを増やし、家事に挑戦する機会や、生活習慣を自分で整えられるようにする。

PICK UP!!

自己調整学習

家庭学習など必要な学習を自分で計画する
 探究を大事にする
 生きる力を身につける
 小中一貫カリキュラム





人生を輝かせられる

時間的、精神的余白をもち、仲間と失敗を歓迎しながらワクワクすることに挑戦する。

西栗倉村内外の資源・人・情報をつなげあい、自己実現や表現・活躍の場を自分たちで作り上げる。

PICK UP!!

村全体がやってみん学園になる

活躍できる場
表現できる場
仲間とつながれる場

ワクワク

つながり

余裕

失敗できる環境

仲間

場

人

情報

夢

実行

コーディネーター

何もしない日、やりたいことだけする日など、自分のやりたいことができる時間を確保し、ゆったりできる場所など居心地よい場を持つ。

未来のビジョンを思い浮かべ、次にやりたいことに希望を持つ。

ゆるやかなつながりを持ち、日々の交流を通して信頼関係をつくり、やってみたい!を快く応援しあえる村をつくる。

やってみたいことを気軽に言える環境があり、発案者に協力する人が現れ、企画を応援してくれる。

大人のまなび場が定期的で開催され、常に学べる環境が整っている。

スポーツ大会や文化的催しが開かれ、人々が集い、楽しむことが頻繁に行なわれている。

垣根を越えて誰かのやってみたい!に対して、適切な場や人、情報をつないでくれる存在がいる。



安心

挑戦

①心豊かな人づくり

地域とともにある学校園づくり	学校園・家庭・地域がそれぞれの取り組みを共有し、協働した取り組み(学校運営協議会※・見守り隊、子ども応援団※)を行なう。住民が学校園について知り、行事などに参加する機会を増やす。	
子ども応援団の推進	地域の方が地域社会での活動・学習をとおして知識、技術、あり方を学ぶサポートをする。子どもが安心して学校園に通い、学習効果を高めるため子どもたちと一緒に活動する。	
村全体で行なうあいさつ運動	幼児期から気持ちのよいあいさつを行い、人と人とのつながりを深め、信頼関係を築く。学校や家庭、地域のコミュニケーションを活発に、子どもたちを適度な距離で見守れる環境を作る。	
安心安全な遊び場の提供と推進	気軽に訪れることができ、子どもも大人も安心して活動できる遊び場の検討を行なう。自然の入り口となり、小中学生の子どもたち自身で遊びに行けるような遊び場などの整備を目指す。	
大人も子どもも世代を超えて、一緒に学べる場の整備	あわくら会館やPocket※、よしみちでの講座・イベント、親子参加ができる学校行事を積極的に開催し、大人も子どもも学びあえる機会を増やす。漢検や英検などの検定・資格試験を合同で行ない、学ぶ姿が見える環境を作る。	
やってみたい!の応援	あわくら会館や西栗倉むらまると研究所、Nestなどが伴走を行ない、村民のやってみたい!を実現する後押しをする。	
読書環境の充実	就学前	ブックスタート、園の図書の充実と図書館との連携、絵本の読み聞かせの推進(ボランティアの派遣)
	小中学校	セカンドブック、朝読書等の時間、学校図書の充実と図書館との連携(司書の配置)
	生涯学習	興味関心のある本のリクエストや本を通じた交流を促進する
子どもの居場所となる拠点の整備と充実	就学前	保育園、幼稚園、あわくら会館、バンビ、こどものもり公園
	小中学校	小中学校、はあとルーム※、ほっとルーム※、げんきこクラブ、あわくら会館、Pocket、こどものもり公園
	生涯学習	あわくら会館、むlabo※、Pocket
生活に余白・余裕を創出	就学前	何かに出会い、没頭できる時間を持ち、思いっきり遊び、生活習慣を整える
	小学校	宿題や習い事だけでなく、様々な体験や自分の興味関心のあることにチャレンジできる時間を持つ
	中学校	部活や宿題だけでなく、外の世界を知り、関心を持ったことにチャレンジし、協働できる時間を持つ
	生涯学習	余暇をゆっくり過ごすことができたり、やりたいことに没頭できる時間や場をもつ
SDGsの学習・推進	村民全員が持続可能な社会を目指し、17のゴールの実現に向けて学び、世代・所属を越えて連携しながら自分たちが取り組めることに積極的に行動する	

心豊かな人づくり



〔目指す村の姿〕

・村民が、人とのつながりを大切に思い、楽しみや生きがいを持ち、自分らしく人生を楽しんでいる

指標	現状	目標	
あなたは人生を楽しんでいますか	—	村民 80% 小中学生 80%	村民アンケート 小中学生アンケート(小4~中3) 新設
気持ちのよいあいさつができています	小学生 73.8% 中学生 88%	小学生 90% 中学生 90%	児童・生徒アンケート(学校)
地域の人に参加した小中学校の活動及び授業数	45回	45回	実施回数※(総合振興計画指標)
中高生と村の大人が協働して実施した活動数	5回	3回	実施回数※(総合振興計画指標)
図書館の村民1人あたりの年間貸出冊数	11.8冊	14冊	※(総合振興計画指標)
日頃の生活の中で休んだり、好きなことをしたりする時間のゆとりがあるか	68.8%	72%	村民アンケート
自分にはよいところがあると思いますか	小学校 93.3% 中学校 100%	小学校 100% 中学校 100%	全国学力・学習状況調査質問紙
家と学校以外に安心できる場所がありますか	—	小学生 80% 中学生 80%	小中学生アンケート(小4~中3) 新設

心を豊かに

②乳幼児教育の充実

信頼

自然



豊かな自然の中で五感を刺激し、多様な体験につながる豊かな遊びの推進	幼児期の豊かな遊びの中で様々なものに興味をもち、面白さを感じ、学びの芽を育む時間をつくる。西栗倉の豊かな自然の中で日々の散歩や季節のイベント(雪遊び、村たんけん、魚のつかみどり、沢歩き)など五感を刺激し、村の自然に浸かれる環境を整備し、人の支援を得られる体制をつくる。	
地域の人との積極的な交流	子どもたちが日々の散歩や村たんけん、ボランティア(子ども応援団)など地域の方と交流を行なうことで、地域の人とつながる関係性をつくることで、ふるさと西栗倉が安心できる場所にする。	
保育園、幼稚園、家庭、地域の連携・交流	保護者の方にも積極的に学校園活動に関わっていただき、地域に開かれた行事・取り組みを発信し、保育・教育に興味や参加してもらい、地域全体で子育て支援を行う風土をつくる。	
子育てについて学ぶ機会の創出	親としての「学び」と「育ち」を支援する学習機会や子育てについて話し合える場を提供するとともに、子育てを支援する情報の提供や家庭教育を支える人材の育成を行なう。	
保育環境の充実	適切な玩具の設置や状況に応じたゾーニングを可能にするなど発達段階に合わせた遊び込む環境の整備を行なう。	
就学、就園時のスムーズな移行の推進	保育園	園児・保護者・保育士が幼稚園と目的をもって交流する。
	幼稚園	園児と児童・保護者・先生が小学校と目的をもって交流する。
保育園、幼稚園が一体となる認定子ども園施設の整備に向けた検討を行う	多様化する就学前教育・保育ニーズの変化に柔軟に対応するため、認定子ども園の整備について学習・検討、協議を行ない、保育園、幼稚園での体験・学びの一貫性を高め、職員の負担を減らしつつ、質の高い保育・教育を目指す。	
放課後児童クラブの施設の整備に向けた検討	認定子ども園として保育園・幼稚園の施設統合の検討を行なうに伴い、小学校との接続も見据えた、安全で思いっきり活動できる放課後児童クラブの施設整備に向けた検討を行なう。運営体制の研究とともに保育園から小学校までのスムーズな移行、一貫したプログラムを行なう。	



〔目指す村の姿〕

- ・ 保育環境を充実していき、認定子ども園を整備し、村の人や自然を活かした一貫した体験や学びの中で豊かな心を持った子どもたちが育っている
- ・ 子どもの発達や環境について家庭・保育者・地域が学ぶ機会や取り組みが充実している中で子育てができています

指 標	現 状	目 標	
村の自然を活かし、五感を鍛え、子どもの不思議と思う心を育てようとしていますか	幼稚園 90.4%	幼稚園 100%	幼稚園アンケート
地域の方との交流を大切にしながら、子どもを育てようとしていますか	幼稚園 95.2%	幼稚園 100%	幼稚園アンケート
子どもは幼稚園に行くことを楽しみにしていますか	幼稚園 100%	幼稚園 100%	幼稚園アンケート
子どもは保育園で楽しく生活しているようですか	保育園 91.6%	保育園 100%	保育園アンケート
幼稚園と保育園との交流回数	4回	10回	実施回数
小学校と幼稚園との交流回数	2回	5回	実施回数
家庭や地域が子育てや子どもの発達について学ぶ機会	保育園 3回 幼稚園 3回 バンビ 24回	保育園 5回 幼稚園 5回 バンビ 24回	実施回数
職員の資質向上研修の実施	保育園 5回 幼稚園 12回	保育園 12回 幼稚園 12回	実施回数
認定子ども園整備に向けた検討会議の実施	—	4回	実施回数



③西栗倉一貫教育の推進



学校運営協議会での協議	学校運営協議会において西栗倉一貫教育の方向や指針、一貫性のあるプログラム運営について協議、提案、実行、評価を行なう。	
西栗倉つ子教育ネットワークの推進※	西栗倉村内の幼小中の教職員及び教育関係職員が協働し、教育振興基本計画に基づく目指す姿、つけたい力を共有し、12年間の一貫した学びと育ちの連続性系統性を研究する。地域の人材、自然及産業等の西栗倉村の特色を活かし、あらゆる領域で「学び合う力」の育成を行う。幼小中が共通のテーマの下、連携研究授業を行い、目指す子ども像を実現していく。学校運営協議会を積極的に活用し、特色ある学校園づくりをすすめる。	
教育コーディネーター※の配置	就学前	教育コーディネーターと協働しながら効果的な自然体験を行なう。
	小中学校	地域の人材、自然、産業等の資源を教科学習、地域学習、学校行事につなげ、円滑かつ効果的に進行を行なうために教育コーディネーターと協働して活動を組み立てる。
幼児期から西栗倉の豊かな自然や人に積極的に関わる特色ある教育	就学前	日々の散歩や山あそび、沢歩き、村たんけんを通して自然や地域の人とふれあい、思いっきり楽しむ体験をたくさん積む。
	小学校	地域の資源を学習し、村をまるごと理解する。とくにふるさと元気学習において、学校外・地域に対してアウトプットしていくことで学びを深めていく
	中学校	小学校からの学びをいかし、さらに地域について学び、村内外へ西栗倉村の魅力を高める活動を通して、将来のキャリア観を育み、自立を目指す。森林体験学習、キャリア教育（職場訪問・職場体験）等、社会とのつながりを学ぶ。
縦のつながりを生む交流授業・行事を推進	幼小中合同運動会をはじめ、園児から中学生までの縦のつながりを意識した交流・異学年活動の学習の場とする。また、授業交流（秋パーティー、乳幼児保育体験など）やSDGs共有会など様々な取り組みを通して幼→小、幼→中、小→中の活動関連性を高める。	
学力向上のための協議・分析	確かな学力向上のため、体系立てて、授業づくりについての研修や学力テストの結果などを小中学校が相互に分析し、魅力ある授業づくりや家庭学習などについて研究・協議を行なう。	
英語教育（活動）の推進	就学前	ALTによる英語活動の時間を設け、自然に英語を親しみ、楽しい活動として学びの土台をつくる。
	小学校	ALTが入る外国語活動をすすめ、発達段階に応じて中学年までに話す、聞くなど英語に慣れ親しみ、高学年ではさらに読む、書くことも加わり、英語を身につけていく。またユネスコスクールにおける他校他国の学校との交流や英語フェスティバルを通して、学んだ英語で表現、コミュニケーションをとることができる。
	中学校	ALTを配置し授業を行うほか、学んだ英語を活用したオーストラリアへの語学研修や、ユネスコスクールにおける他校他国の学校との交流、英検の取得などを推進し、世界とつながり、物怖じせず自然と英語でコミュニケーションがとれるようにする。



③西粟倉一貫教育の推進

信頼



自立



支援の連携	支援の必要な子どもたちの姿を十分に把握し、保護者とともに学校園、自立応援室、教育相談、SC（スクールカウンセラー）、SSW（スクールソーシャルワーカー）※、学校外の活動機関との連携、地域での連携や情報共有を行い、子どもが過ごしやすく将来へつながる支援を行なう。また、長欠、不登校の未然防止、早期対応、継続的支援をすすめる。また、村保健福祉課事業の心理士の訪問や保健福祉課子育て相談事業、特別支援部会等の子育て相談などとの連携を図り、支援を連続的に行なう。
きめ細やかな生徒指導	日々の児童生徒の観察の他、生活アンケートの実施、Q-U調査等を行ない、いじめの未然防止や早期発見、早期対応を推進する。また、生徒指導委員会を中心に子どもたちの意識づけ、指導を行なう。
キャリアパスポート※2の活用	学校、家庭、地域において学習や生活の見通し、目標をたて、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を通して、主体的に学びに向かう力を育成していく。また教師や保護者はキャリアパスポートを活用し、児童生徒と対話的に関わることにより、児童生徒の成長を促し、系統的な指導を行う。小学校、中学校そして高等学校とつなげるだけでなく、村全体での学習活動等社会教育の活動についてもキャリアパスポートが活用できるよう研究していく。
地域の特徴を活かした安全安心な食育の推進	西粟倉産の食材を使い、安心安全な学校給食を提供する。また生産者の方の話や食材について学びを深め、食に対する理解を高める
家庭・学校園が連携し、生活習慣を整える	養護部会、村ネットワーク生活部会が中心としながら、早寝早起き朝ごはんといった生活習慣を整え、幼小中メディアコントロールも含めた健康的な生活の実現を推進する。また、学校園、保護者等いつでも相談できる環境や体制を整備し、子どもから大人まで生活について学ぶ機会をつくる。
子どもたちの自律	児童会や生徒会が中心となって学校園の過ごし方、ルール、学校のあり方について対話・協議し提案する機会を増やす。





西栗倉一貫教育の推進



〔目指す村の姿〕

- ・子どもたちは、地域から学び、支えられる風土の中、15の春（中学卒業）までに子どもたちは「社会を生き抜く力」を身につけていることができている
- ・子どもたちが学んだことを通して、ふるさと西栗倉で何ができるかを考え、実践したことを社会や世界へ発信している

指 標	現 状	目 標	
西栗倉っ子教育ネットワークでの授業研究協議の回数	3回	3回	実施回数
不登校児童生徒の出現率	4.5%	0%	長欠不登校調査
朝ごはんを毎日食べている園児児童生徒の割合	幼稚園 94.8% 小学校 86.7% 中学校 83.3%	幼稚園 98% 小学校 90% 中学校 90%	村ネット生活部会（冬休み生活アンケート） 全国学力・学習状況調査質問紙
地域学習の成果を発表する機会の数	小学校 3回 中学校 1回	小学校 4回 中学校 3回	実施回数
授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか	小学校 80% 中学校 83.4%	小学校 90% 中学校 90%	全国学力・学習状況調査質問紙
おたからマップを活用した授業回数	小学校 - 回 中学校 - 回	小学校 6回 中学校 3回	実施回数
教育コーディネーターが関わる取り組み数 （総合的な学習の時間、地域学習、キャリア教育、ESD・SDGs等に関わる授業、取り組みの支援）	幼稚園 2回 小学校 32回 中学校 10回	幼小中で 45回	実施回数
キャリアパスポートを活用した目標と振り返りを児童生徒と共有する場面の実施回数	小学校 3回 中学校 6回	小学校 3回 中学校 6回	実施回数

④個別最適な学びと協働的な学びの実現

実践

自立

基礎学力の向上	基礎学力の定着、向上に向けた組織的な取り組みを行い、全ての児童、生徒に確かな学力の育成を図るとともにICTを活用するなどした習熟度に対応した学びを推進する。
子どもが自ら考え学ぶ授業や活動	新しい時代に必要となる教える学びから、主体的、対話的で深い学びの視点にたった授業を行なう。事前学習を活かし、学ぶ目的を児童生徒と共有し、自分で選択し、粘り強く取り組んだり、子ども同士の学び合いや他者との関わりの中で、自分の考えを広げ深めていく。知識、技能を生活の中にもいかし、未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力を育てていく。
本質的な家庭学習	事前学習を中心とした家庭学習にすることで、授業では、「自分のわからないところ」を理解する時間にする。宿題の整理、見直しを行ない、自発的探求を推奨するなど宿題の本質化を図る。
学びの環境の土台となるICTの整備	タブレットや電子黒板、デジタル教科書などのICT機器の充実や安定したネットへの接続を行なえるネットワークを整備し、小中へICT支援員の配置・活用を行なう。また、ICTを活用した授業づくりのための教職員研修を行う。
個に応じた教育的支援の実施	学校内に自立支援室を設置し、学校内に居場所を作る。学校は学校外の支援施設と、子どもの情報や支援について情報共有する。また、子どもの心の発達に専門家との連携機会を密にもち、一人一人の学習特性に合わせて支援を行ない、誰一人取り残さない教育の実現を目指す。
専科教員やチームティーチング等による教員の配置	個に応じた支援体制を整えるため、高学年等における教科担任制や学習場面に応じて、2人以上の教職員が連携協力して授業を行うチームティーチングの体制を作る。
校内研修や村教育ネットワーク授業研究等による先駆的な授業づくり	個別最適な学びと協働的な学びの実現にむけた魅力ある授業作りについて、教育委員会に指導主事を配置したり、外部講師による指導等校内研修および村教育ネットワーク授業研修に全職員で取り組む。
公教育と社会教育との融合	あわくら会館や西栗倉むらまると研究所、Nestなどが学校園と連携しながら子どもたちの「やってみよう！」を中心に授業や放課後の活動の伴走を行なう。また、学校園の中での授業やプログラムを専門的な視点から一緒に組み立て、連携、サポートを行なう。
子どもたちの関心を引き出すきっかけづくり	常に村内外の資源を紹介する機会をつくり、子どもたちの興味関心を広げ、学習のきっかけをつくる。いつでもどこでも学びや体験に向かえる環境と体制を整備する。

個別最適な学びと協働的な学びの実現

実践

自立



〔目指す村の姿〕

- ・子どもたちの興味関心や子ども同士の学び合いにより、子どもたちの可能性を引き出す、主体的、創造的な魅力ある授業が行われている
- ・ICTの活用も含め、学びの多様性に対応する場と機会を整え、学び続ける教職員を支援する

指標	現状	目標	
計画的に家庭学習に取り組むことができている(肯定回答)	小学校 73.3% 中学校 83.3%	小学校 80% 中学校 85%	全国学力・学習状況調査質問紙
話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできていますか(肯定回答)	小学校 93.3% 中学校 83.3%	小学校 100% 中学校 100%	全国学力・学習状況調査質問紙
授業でICT機器をほぼ毎日使用したか	小学校 6.7% 中学校 33.3%	小学校 100% 中学校 100%	全国学力・学習状況調査質問紙
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	小学校 73.3% 中学校 100%	小学校 80% 中学校 100%	全国学力・学習状況調査質問紙
分からないことが分からないと言えていますか	—	小学校 100% 中学校 100%	児童生徒アンケート
自立応援室の設置	小学校 1教室	中学校 1教室	設置数
授業力を向上するための研修会の実施	小学校 25回 中学校 12回	小学校 25回 中学校 12回	実施回数

自分を
生きる

人生を
輝かせられる

⑤人生を輝かせられる学びの推進

実践

自立



ワクワク

つながり

健康・体力づくりの推進	体育協会※、スポーツ推進員※が中心となり、日ごろから運動・スポーツを行なう習慣をつける。各種スポーツ大会や運動を考える会を開催し、世代を超えて健康・体力づくりを行なう	
スポーツ環境の整備	誰もが気軽にスポーツができ、目的や世代に応じて利用しやすい運動ができる場・フィールドの整備を行なう	
文化活動環境の整備	誰もが気軽に文化芸術活動を行なうことができ、あわくら会館など目的や世代に応じて利用しやすい場の整備・運用を行なう	
安全で充実した施設整備	教育施設、生涯学習施設の安全点検の実施、施設等の適切な修繕の実施を行なう ※別紙教育委員会関係施設	
学習への金銭面での支援・助成	夢実現に向けた進学ができるよう村が高等学校等への就学に要する学費及び通学費等を助成する（高等学校等就学支援金）	
利便性を向上させるICTの活用	学校園	学校からの連絡、保護者からの連絡や行事カレンダーや資料閲覧などをデジタルで行なえるようにする
	生涯学習	活動場所の利用予約等をすぐに確認でき、予約できる仕組みを検討していく。また、やってみん掲示板など需要のマッチングを行なうネットワークを作成し、リアルタイムでのやりとりをサポートする。また、おたからマップ※など個々の活動の情報も集約され、相互にやりとりができる環境を整備する。
芸術・文化団体の活動を推進するため、団体の育成と支援	文化協会※を中心としながら、文化芸術活動団体、文化活動を行なう個人を村内の芸術・文化振興のため支援・助成を行なう。また、学校園の文化活動の発表を公開できるものについては広く村民との交流の場とする。	
スポーツ団体の活動を推進するため、団体の育成と支援	体育協会を中心としながら、体育活動団体（スポーツ少年団など）、体育・スポーツ活動を行なう個人、団体を体育スポーツ振興のため支援・助成を行なう。また、子どもたちには本物を見て体験できるよう支援していく。	
芸術文化の振興、生涯学習、スポーツの人材育成のための支援	村内の教育環境を整え、次世代に受け継ぎ振興を図るため、指導者研修費用の助成や研修の実施を行なう。また、村外からのアーティスト・芸術家を呼び、コンサートやアート活動等本物を体験できる場を設ける。	
村外での活動支援・促進	西粟倉村では体験しづらいスポーツ・文化芸術・学習研究会などの情報を収集し、村民へ周知する。また、村外活動への助成や村外講師の招待なども検討し、村に住みながら体験・学習できることを豊かにすることを目指す。	

自分を
生きる

人生を
輝かせられる

人生を輝かせられる学びの推進

実践

自立



ワクワク

つながり

〔目指す村の姿〕

- ・村民が、自ら輝かせられる時間をしっかりとることができ、健康で人生を楽しみながら暮らすことができている
- ・村民自らの「やってみたいの実現」から「あつまる」「つながる」が生まれ、子どもから大人、高齢者まで一緒に学び合いながら育っている

指標	現状	目標	
生涯学習講座(村民講師イベントやあわくら大学等)の年間実施回数	103回	130回	総合振興計画指標
生涯学習などの成果を発表展示する場の数	3回	3回	総合振興計画指標
子どもが所属するスポーツ団体数	7団体	11団体	総合振興計画指標
スポーツ大会やスポーツイベントの参加数	336人	500人	総合振興計画指標
文化系サークルの団体数	8団体	12団体	総合振興計画指標
適度に運動するか体を動かしている	50.2%	60%	村民アンケート
子どもと大人と一緒に学ぶ機会数	—	5回	実施回数



⑥「学び」を支える環境の整備

生涯学習を地域で推進する	社会教育委員を中心に、社会教育も横のつながりを大切にしながら、地域・団体の取り組みを協議、連携できる仕組みづくりを検討する。
学習機会の充実	あわくら大学や村民講師、会館講座など利用者やスキル・知識・経験をもった講師の多様なニーズを把握しながら、要望のマッチングや能力を発揮できる場等を開催できよう支援していく。
歴史、文化の保存、研究活動、活用の支援	西粟倉村の歴史やお祭り、文化の保存・継承を推進し、村外の学術機関や研究者も含めて、研究の支援や村を題材にした研究の発表の場を設けるなどサポートを行なう。
生きがいや仲間作り等学んだ成果を地域に広め活用できる環境づくり	日常の中でやってみたいことの要望やすでに行なわれている取り組みの情報が集まり、募集をかけやすい環境を整備する。また、実際の活動の発表や活躍の場として、村民講師のイベントや文化祭などを開催し、生きがいの実現をサポートする。
学習機会の情報の提供や発信、交流の創出	広報紙、HP、SNS、あわくら会館スタッフややってみん掲示板、教育コーディネーターが村の情報や人財を把握し、必要な人へつなげる。また、おたからマップなど多様な機関が行う生涯学習活動をつなぐ機能についてデジタル化など更に発展させる
多世代が集まり交流を深める機会	学校園、Pocketやむlabo、あわくら会館などチャレンジを応援する場の連携交流を創出・強化していく。村全体で相互に参加しあい、お祭りや文化祭、イベント、各種スポーツ大会など多世代が交流、親交を深める機会を増やす。
村外とのつながりの創出	村外の施設や取組との連携・コラボレーションを増やし、西粟倉村をさらに開かれた場として多様な学習・体験が村に住みながらもできる環境を整備する。
教職員の働き方改革の推進	欠席連絡やおたより配布などは連絡アプリを活用したり、出席管理や成績管理などの業務のデジタル化、事務作業や会議などもITツールの活用や行事の見直し、業務プロセスの見直しなどを行う。また専科教員を配置することで教員1人あたり負担を軽減したり、ICT支援員や教師業務アシスタント等を配置することで、子どもたちと向き合う時間を確保する。
部活動の地域移行	学校で行なわれている部活動の地域移行を学校、地域、保護者等で運営方針・方法を検討し、移行を段階的に実施していく。地域での活動整理や指導者の育成を図る。また、生涯学習における活動との連携・協働を行なうことで地域づくりのハブとなる可能性を探る。

自分を
生きる

人生を
輝かせられる

「学び」を支える環境の整備

ワクワク

つながり



〔目指す村の姿〕

- ・村民の「豊かな学び」や「やってみたいの実現」を応援できる人や安全な施設、設備などの環境が整っている
- ・教職員が安心して職務に専念できるよう、ICT機器をはじめとする環境が整備され、家庭や地域が学校園と共に子どもたちの学びを支える村となっている。

指 標	現 状	目 標	
やってみん掲示板への投稿数	37回	45回	実施回数
幼稚園・小中学校トイレ改修工事の実施数	—	3校園	トイレ洋式化乾式化工事の実施
小中学校体育館の施設予約率	60.3%	65%	月平均の予約率
時間外在校等時間が45時間以下の教職員割合	63.5%	100%	教職員超過勤務時間報告調査
ICT機器を活用した校務の効率化と業務の負担軽減が出来る(統合型校務支援システム、電子黒板やデジタル教科書の整備、AIドリルの導入)	どちらかといえば できている	できている	働き方改革に関する取り組み状況調査
子どもたちがやりたいことへの伴走回数	16回	20回	実施回数
生涯学習の推進について協議する機会	—	3回	実施回数
Pocketの登録数	—	30人	登録数



教育委員会関係の施設・設備について

教育委員会は多くの施設を管理しております。老朽化している施設や定期的にメンテナンスや修繕が必要な施設、また新たに整備する施設もあると考えます。また、5年に1度を目安に更新が必要だった学校園の校務用パソコンやGIGAスクール一人一台端末の学習者用タブレット等、今後は購入での整備ではなくリースでの計画的な備品の更新も必要と考えます。

なお、学校施設の整備は多額の経費が必要だと見込まれるため、令和5年度中に「西栗倉村公立学校施設建築計画」を作成し、計画的に実施していきます。

教育委員会が管理している建物			
西栗倉中学校	西栗倉小学校	西栗倉幼稚園	西栗倉保育園
ラックハウス	コンベンションホール	げんきっこクラブ	

◎老朽化がすすんだ建物のため、改修や継続的にメンテナンスが必要な建物

施設名	建設年次	課題	備考
西栗倉中学校	校舎：平成4年3月落成 体育館：平成5年4月落成	老朽化による外壁劣化、トイレの乾式化、体育館トイレの洋式化及び外部との併用	
西栗倉小学校	平成11年4月落成 給食調理場は平成2年3月、ランチルームは平成2年7月落成	老朽化による外壁劣化、トイレの乾式化、給食棟の屋根の改修	

施設名	建設年次	課題	備考
西栗倉幼稚園	平成10年4月落成	老朽化による樋の劣化、トイレの乾式化	
げんきっこクラブ	旧JA施設2階	老朽化及び児童が過ごせる十分な施設、面積ではないため。	
ラックハウス(教員住宅)	昭和63年落成	老朽化による外壁の劣化、内部の継続的メンテナンス必要	
コンベンションホール		照明が水銀灯のためLEDに変更	
村民グラウンド		ナイター照明が水銀灯のためLEDに変更	

◎継続的にメンテナンスが必要な建物や施設

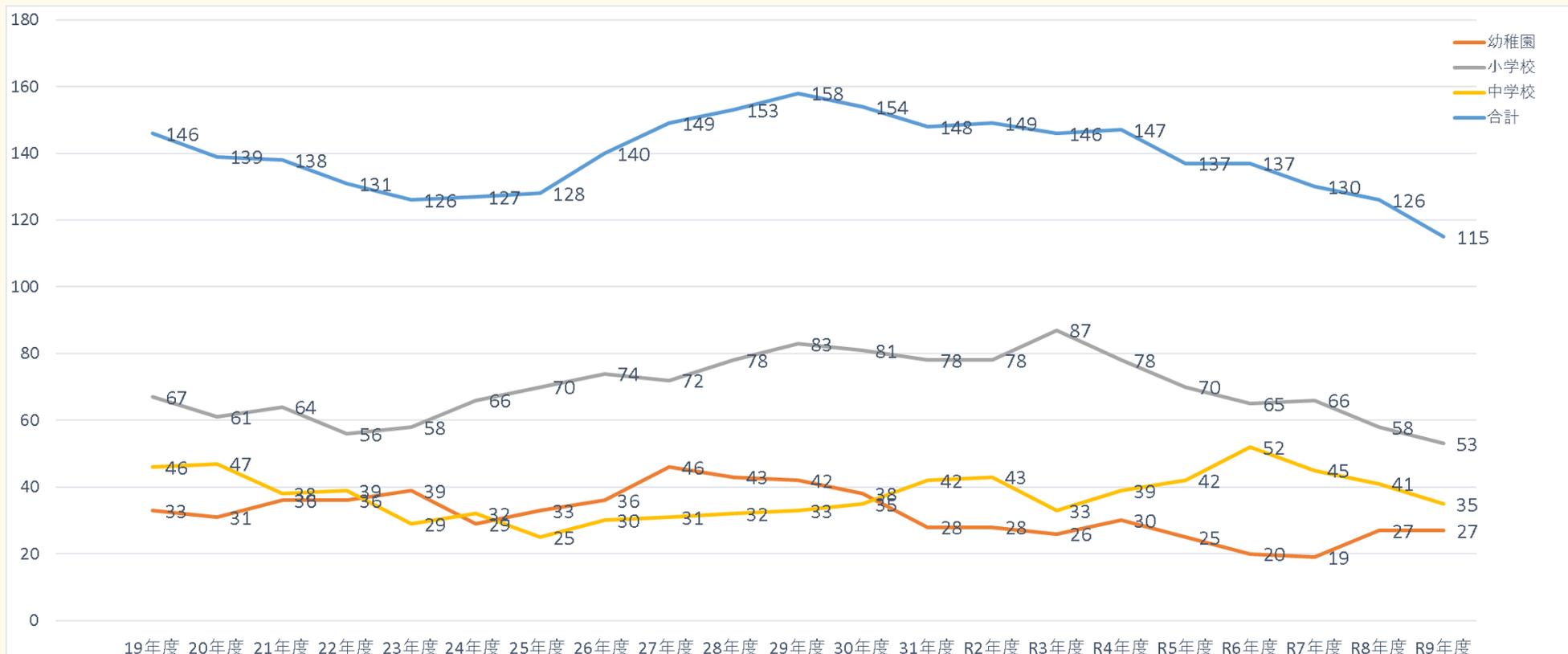
施設名	建設年次	課題	備考
西栗倉保育園	平成30年3月落成	木造建築であるため、継続的にメンテナンスが必要	
子どもの森公園	平成30年3月落成	木製遊具・ビオトープの定期的メンテナンスが必要	

資料

園児・児童・生徒数の推移(2024.3.1現在)

※R5以降は見込み

年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
幼稚園	33	31	36	36	39	29	33	36	46	43	42	38	28	28	26	30	25	20	19	27	27
小学校	67	61	64	56	58	66	70	74	72	78	83	81	78	78	87	78	70	65	66	58	53
中学校	46	47	38	39	29	32	25	30	31	32	33	35	42	43	33	39	42	52	45	41	35
合計	146	139	138	131	126	127	128	140	149	153	158	154	148	149	146	147	137	137	130	126	115



教育大綱

『生きるを楽しみ、百年の森林とともに未来をつくる』

科学やテクノロジーの進化がめざましい中で、気候は地球規模で激しく変動し、将来の予測が困難な時代が到来している。

このような時代において、一人ひとりが幸せな人生と社会の持続的な発展を目指すために、教育の果たす役割はますます大きくなっている。

わたしたちの生活の土台をなす森林のはたらきを感じ、学びながら百年単位の持続可能な生活を実践していく中で、それぞれが豊かな個性と感性を発揮し、様々な課題に気づき、協働しながら、その解決にすすむ姿勢が求められる。

このような視点にたち、西粟倉村の教育の基本理念を表すものとしてこの大綱を策定する。
そして、大綱の実現者である村民一人ひとりに問いかける。

3つの問い

- ① 人生をより豊かに楽しんで生きるためには、どのような学びや気づき、環境が必要か
- ② 生活と自然環境の調和をどう図り、行動するのか
- ③ 時代の変化に対応しながら、主体的に課題を見だし、子どもたちが未来ある社会の担い手として成長するためには何が必要か

本教育大綱の実施については、西粟倉村教育振興基本計画に委ねる。

SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標) の達成

現在、世界中の様々な国で環境問題(気候変動)、貧困、紛争、人権問題など多くの課題に直面しています。SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)とは、これらの課題を世界のみならず2030年までに解決していこうという計画・目標です。「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現を目指す世界共通の目標として2015年の国連サミットにおいて掲げられ、17の目標と169のターゲットから構成されています。

西粟倉村では2019年SDGs未来都市に「百年の森林づくりを推進しつつ、地域の森林資源を見直しながら、豊かな村づくりを行う」という提案で応募し、その中でも特に先導的な取り組みとして「SDGs未来都市(自治体SDGsモデル事業)」に選定されています。

小さな村だからこそ全国に先駆けて取り組んでいけることがあると考え、今後もいつまでも豊かな西粟倉村でありつづけられるよう様々な取り組みを推進しています。各学校園でもSDGsについて学び、課題解決に向けて取り組んでいます。



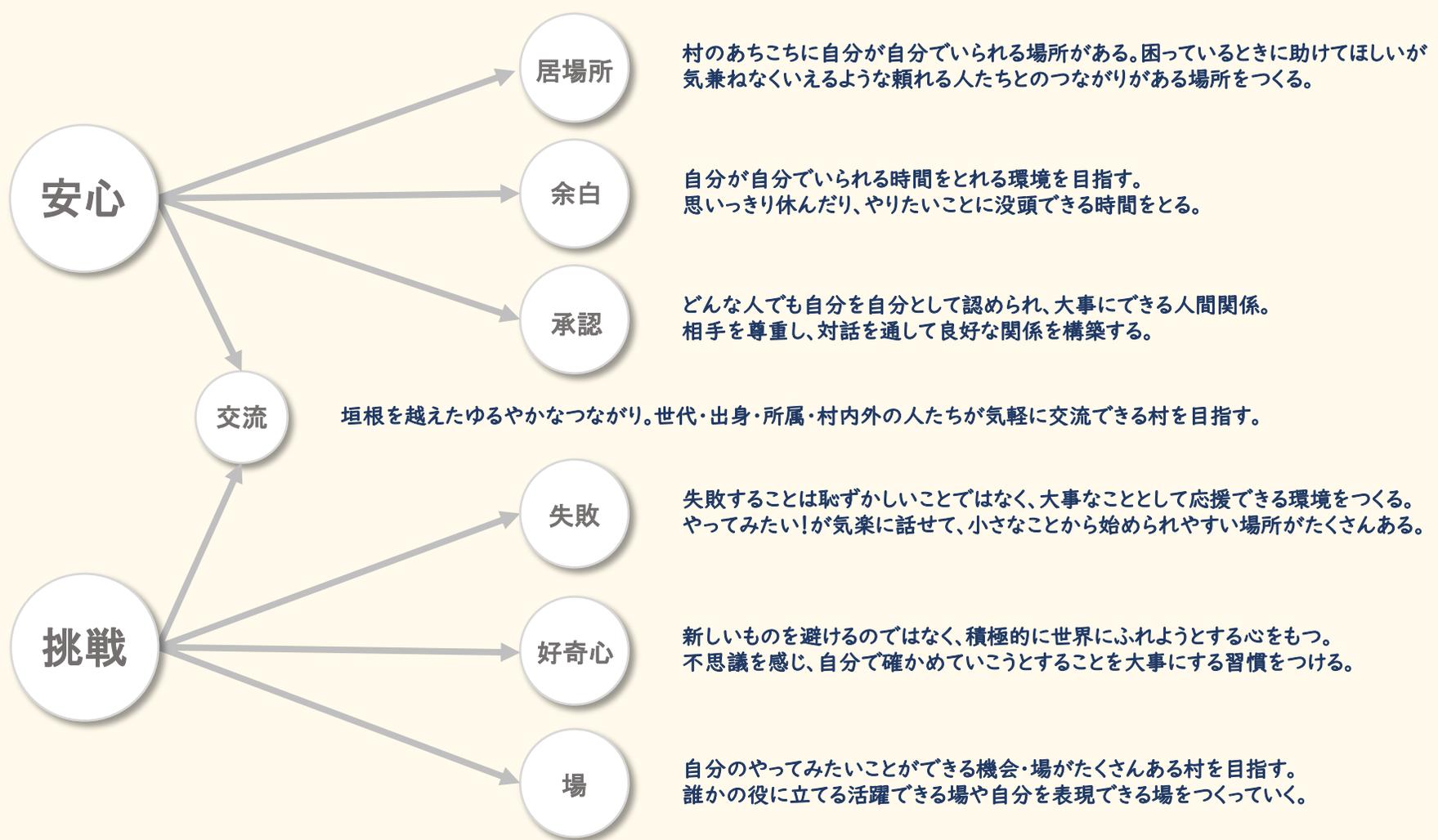
実行に大切な2つの価値観

西栗倉村の教育を豊かなものにしていくためになにが必要かを考えていくワークショップを繰り返す中で、各グループに共通した大事な価値観が見えてきました。「安心」と「挑戦」の2つの価値観です。

全ての学びの土台には安心があります。「自分は大切にされている」「自分のことを認めてくれる人がいる」と自分自身も大切にすることができます。下記のように安心というキーワードはたくさんあり、乳幼児期からこのように丁寧な関わりをしていくことで自己肯定感が育ち、自然豊かで温かい人たちに恵まれた西栗倉村で育つことはとても大事です。

しかし、守られているだけではなく、積極的にやってみようとして挑戦したりやチャレンジしていくことが生きるを楽しむことにつながり、これが西栗倉村で育てたい人の姿の根本であります。





安心

キーワード

- ・自分でいられる
- ・他社とのつながり
- ・ゆるやか
- ・人間性

- ・認める／認められる
- ・愛情
- ・許容
- ・自分も大事にできる

- ・待つ
- ・心の健康
- ・時間
- ・自信

- ・相談できる人
- ・応援できる人
- ・頼れる人
- ・困っているといえる

- ・経済力
- ・衣／食／住

挑戦

キーワード

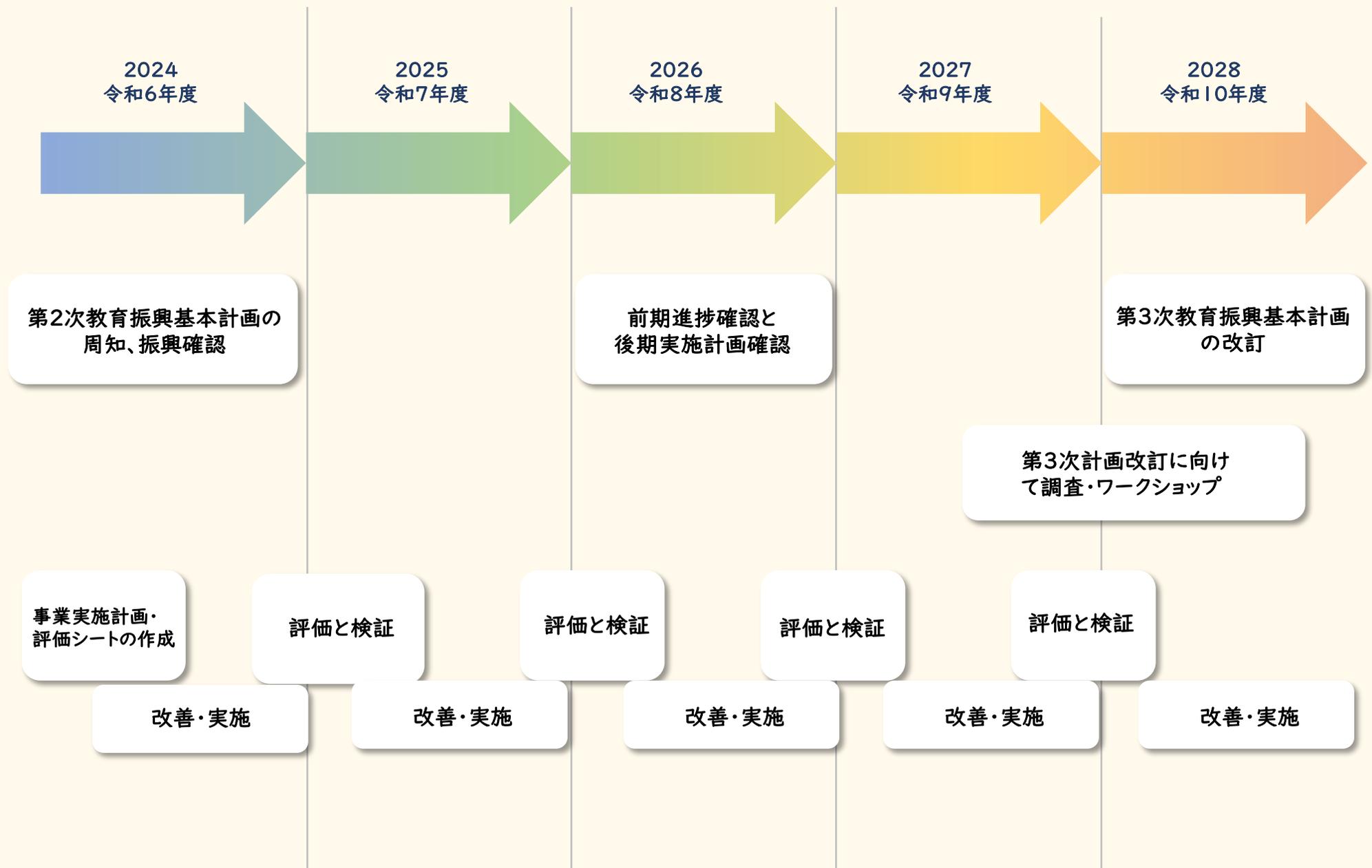
- ・新しい世界にふれる
- ・学び方を知る
- ・選択肢がある
- ・場がある

- ・失敗はよいこと
- ・やりきる
- ・まずやる
- ・スモールステップ

- ・希望
- ・未来につながるビジョン
- ・好奇心
- ・探求心

- ・やりたいことをやるためにやりたくないことをする力
- ・問いを持つ
- ・一貫したカリキュラム

今後のスケジュール



西粟倉村教育振興基本計画策定委員名簿

氏名	役職
竹内 龍一郎(会長)	小学校校長
春名 一樹(副会長)	西粟倉中学校PTA会長
熊谷 慎之輔	岡山大学教授(学識経験)
田中 伸昌	中学校校長
春名 加奈絵	幼稚園教諭
小椋 有美	保育園保育士
宮本 竜治	西粟倉小学校PTA会長
岡田 詩織	西粟倉幼稚園PTA会長
上田 篤史	保育園保護者代表

氏名	役職
福井 正	文化協会会長
小椋 義宣	体育協会会長
川上 えりか	あわくら会館利用者
清家 悟	スポーツ関係者
秋山 淳	教育関係
岡野 真由子	教育関係

ワークショップに参加いただいたみなさん

氏名	役職
鳥越 巖之	社会教育委員
山根 順二	社会教育委員
渡部 和美	社会教育委員・小学校保護者
森本 真志	社会教育委員
青木 眞澄	社会教育委員
清水 由季那	保育園保護者
山岡 美紀	保育・教育関係
中野 洋子	中学校保護者
草刈 美賀子	小・中学校保護者
小川 恵里奈	小・中学校保護者



計画策定の流れ

今回の計画策定には、岡山大学熊谷慎之輔教授をはじめ、懇談会委員の方はもちろんワークショップを通じて、家庭、学校関係者、地域の方、各種活動を行っている方など西粟倉村で教育に関わるみなさんから、村の教育で大切にしたいことや、実現するため大事なこと、実現に必要なものやことなどご意見をいただき、積極的に議論し作り上げてきました。

日にち	実施内容
11月17日(金)	第1回懇談会
12月19日(火)	就学前グループWS①
12月20日(水)	小中グループWS①
12月21日(木)	生涯学習グループWS①
1月9日(火)	就学前グループWS②
1月10日(水)	生涯学習グループWS②
1月11日(木)	小中グループWS②
1月23日(火)	諮問
2月8日(木)	第2回懇談会
3月5日(火)	第3回懇談会
3月8日(金)	答申
3月11日(月)	西粟倉村教育委員会で議決
3月21日(木)	西粟倉村議会で報告



用語解説

学校運営協議会	学校園の教育活動や運営について幼小中の教職員や保護者、地域住民などが参加し、意見を出し合う場のこと。学校園の改善や改革をすすめるために重要な機関で、学校園の教育目標の設定や教育内容、学校生活の改善、整備などについて多角的な視点から議論を行います。これにより、学校園が地域や保護者と連携し、よりよい教育環境を作り出すことを目指します。西粟倉村は幼稚園小学校中学校で1つの協議会としている。
子ども応援団	地域の人々が自分のたちの知識や経験、技術を活かして、学校園の活動を支援、お手伝いしてくれるボランティアの登録、派遣制度
Pocket (ぽけっと)	一般社団法人Nestが運営する日本財団こども第3の居場所コミュニティモデル事業
はあとルーム・ほっとルーム	小学校、中学校で教室登校だけでなく多様な登校の仕方を実現するための部屋集結
むlabo	一般財団法人西粟倉むらまると研究所が運営する村外の先端テクノロジーやツールと村民をつなぐ場
西粟倉っ子教育ネットワーク	西粟倉村の幼小中一貫の教育を研修、研究、実践するために幼小中の教職員が所属する組織。「せいかつ部会」「まなび部会」「ふるさと部会」に分かれ活動するほか、様々な担当者会で幼小中連携している。
教育コーディネーター	地域資源を公教育のプログラムの中で活かすために授業の組み立てから教職員と連携、実行を支援する
スクールソーシャルワーカー (SSW)	教育と福祉の両面に関して、専門的な知識・技術を有するとともに、過去に教育や福祉の分野において、活動経験の実績等がある者
キャリアパスポート	学びと活動の様子を自分のファイルに記録を積み重ねて、小学校から高校までのポートフォリオをつくり、キャリア形成の軸をつくるものである。
体育協会	西粟倉村における体育(スポーツ・レクリエーション)の健全なる振興・普及を図ることを目的とし、各種大会の開催や日々のスポーツ活動を行っており、現在11団体が活動している
スポーツ推進員	各種スポーツ及び健康づくりのイベント企画や運営を行ったり、スポーツについての理解を深めるための研修会に参加するなどし、西粟倉村のスポーツの推進と健康作りの活性化のために活動している
おたからマップ	西粟倉村で行なわれた学習活動や学習資源について写真とテキストを投稿し、いいね!やコメントをつけあえるWebアプリ
文化協会	西粟倉村内の文化活動サークル相互の親睦を図りながら、文化の発展と豊かな郷土づくりに寄与することを目的とし、各種の文化活動を地域に広めたり、各種発表の企画実施などを行い、現在8団体が加盟している